

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第41週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第41週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第41週（令和4年10月10日から令和4年10月16日まで）

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）手足口病 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.44人と前週（1.89人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は1.22人と前週（1.75人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.47人と前週（0.44人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

今週のトピックス

“腸管出血性大腸菌感染症に御注意ください！”について取り上げました。

腸管出血性大腸菌感染症は、主に夏季に流行する感染症です。今年は9月に11件と例年より多くの報告があり、第41週（10月10日～10月16日）も2件の報告がありました。

原因となる大腸菌は、牛等の動物の腸管内に常在するため、肉類は汚染されている可能性があります。感染を防ぐためには、よく加熱（中心部の温度75℃で1分間以上）し、生肉や加熱不十分な肉類は食べないことが重要です。また、菌に汚染された生野菜を食べることで感染する場合がありますので、野菜は流水でよく洗って食べましょう。

腸管出血性大腸菌感染症は、汚染された人の手を介して、ヒトからヒトへ感染することもあります。そのため、一般的な感染症の予防と同様に、手洗いも重要です。食品の取扱いや手指衛生を適切に行い、感染を防ぎましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

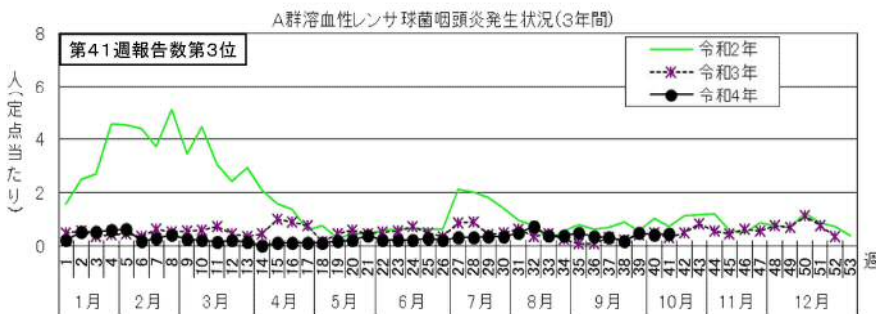
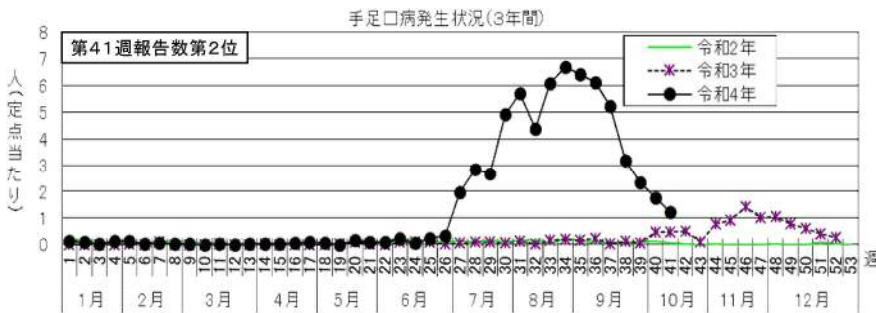
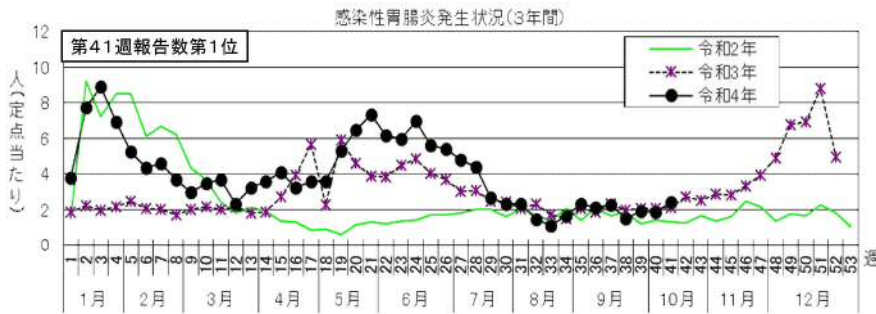
令和4年10月10日（月）～令和4年10月16日（日）〔令和4年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）手足口病 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.44人と前週（1.89人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は1.22人と前週（1.75人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.47人と前週（0.44人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



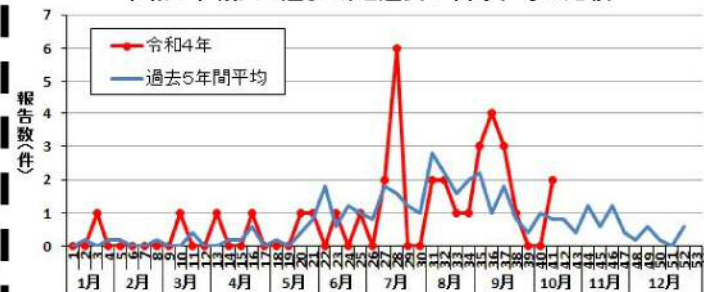
腸管出血性大腸菌感染症に御注意ください！

腸管出血性大腸菌感染症は、主に夏季に流行する感染症です。今年は9月に11件と例年より多くの報告があり、第41週（10月10日～10月16日）も2件の報告がありました。

原因となる大腸菌は、牛等の動物の腸管内に常在するため、肉類は汚染されている可能性があります。感染を防ぐためには、よく加熱（中心部の温度75℃で1分間以上）し、生肉や加熱不十分な肉類は食べないことが重要です。また、菌に汚染された生野菜を食べることで感染する場合がありますので、野菜は流水でよく洗って食べましょう。

腸管出血性大腸菌感染症は、汚染された人の手を介して、ヒトからヒトへ感染することもあります。そのため、一般的な感染症の予防と同様に、手洗いも重要です。食品の取扱いや手指衛生を適切に行い、感染を防ぎましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況
-令和4年(第41週まで)と過去5年間平均の比較-



食中毒予防の3原則

<p>付けない</p> <p>手洗いの徹底</p> <p>調理器具の使い分け</p>	<p>増やさない</p> <p>適切な温度で保存</p> <p>調理後、すぐ食べる</p>
<p>やっつける</p> <p>十分な加熱</p> <p>器具の洗浄</p>	